

2016年1月目標

DC1級 短期合格の秘訣

TAC

DC 1 級 短期合格の秘訣

DCプランナー1級試験は、年金制度や投資商品、ライフプランニングなど出題分野が多岐にわたり、合格するためには各論点を正確に理解することが求められます。当セミナーでは、最近の試験傾向を分析し、1回の受験で合格するための効率的な学習方法をお話しします。

1 試験概要

■試験日程

本試験：平成28年1月24日(日)

基礎編：10：00～12：30（150分）、応用編：13：30～15：30（120分）

合格発表：平成28年3月3日（木）

■受験資格

DCプランナー2級合格者（合格時期、資格登録の有無は問わない）

■試験レベル

確定拠出年金やその他の年金制度全般、および金融商品、投資等に関する専門的な知識を有し、企業に対しては現行退職給付制度の特徴と問題点を把握のうえ、確定拠出年金を基軸とした適切な施策を構築でき、また、加入者等の個人に対しては確定拠出年金の加入者教育の実施と老後を見据えた生活設計を提案できるレベル。具体的には、企業の年金管理者、退職給付コンサルタントを対象。

■合格基準

200点満点で140点以上（配点は非公表）

■法令の基準日

平成27年度に実施する本試験の解答にあたっては、問題文に特に指示のない限り平成27年4月1日現在施行の法令等に基づくものとします。

■受験者データ

回（施行年月日）	受験者数	合格者数	合格率（％）
第9回	1,003	118	11.8%
第10回	979	262	26.8%
第11回	905	111	12.3%
第12回	883	277	31.4%
第13回	833	308	37.0%
第14回	701	211	30.1%
第15回	727	302	41.5%
第16回	800	353	44.1%
第17回	680	130	19.1%
第18回	765	248	32.4%
第19回	748	324	43.3%

■出題形式 基礎編＜四択択一式50問＞、応用編＜記述式問題5題＞

実施団体	日本商工会議所・金融財政事情研究会
[基礎編] 10:00～12:30 (150分)	◇出題形式：四択択一式 ◇出題数：50問 ・A分野 わが国の年金制度・退職給付制度：<u>15問程度出題</u> ・B分野 確定拠出年金制度：<u>15問程度出題</u> ・C分野 投資に関する知識：<u>15問程度出題</u> ・D分野 ライフプランニングとリタイアメントプランニング：<u>5問程度出題</u>
[応用編] 13:30～15:30 (120分)	◇出題形式：記述式 ◇出題数：5事例（3問×5事例＝15問） ・A分野 わが国の年金制度・退職給付制度：<u>1事例（3問）出題</u> ・B分野 確定拠出年金制度：<u>1事例（3問）出題</u> ・C分野 投資に関する知識：<u>2事例（6問）出題</u> ・D分野 ライフプランニングとリタイアメントプランニング：<u>1事例（3問）出題</u>

＜合格の秘訣＞

4分野の傾向に合わせて得点戦略を明確に立てましょう。合格基準点が70%と高いため、基本的な問題は確実に得点しなければなりません。特に応用編は出題数が少ないため、大きなミスはできません。得意不得意に個人差はありますが、下記を目安に学習すると効率よく合格を目指せます。

[基礎編]

・A分野 わが国の年金制度・退職給付制度

15問程度の出題になりますが、社労士合格者等は比較的点数を取りやすい科目です。各制度の細かい部分を問われますので、概要はもちろん各制度間のつながりまで正確に覚える必要があります。暗記項目が多い科目ですが、合格するためには10問程度の正解は必要です。

・B分野 確定拠出年金制度：15問程度出題

確定拠出年金制度のみで15問程度の出題がありますので、基本問題から難問まで出題されています。制度の概要はもちろん、手続きに至るまで詳細を覚える必要があります。比較的点数の取りにくい分野ですが、最低でも8問程度は正解できるようにしてください。

・C分野 投資に関する知識：15問程度出題

15問程度出題されますが、問題の難易度は高くなります。しかしながら、出題範囲は狭くかつ出題論点も安定しているため、FP合格者等で金融を得意にしている方は、9割程度の正解を期待できます。反対に金融が苦手な方は、早めに基本テキストで理論をマスターして、問題演習に取り組んでください。他分野のような法律論の学習ではありませんので、直前での追い込みがききにくい科目です。A・B分野が苦手な方は、この分野で満点を目指してください。

・D分野 ライフプランニングとリタイアメントプランニング

5問程度出題されますが、非常に易しい分野ですので、確実に全問正解してください。この分野でのミスは致命傷になります。

[応用編]

- ・ A分野 わが国の年金制度・退職給付制度

1 事例の出題になりますが、出題傾向が安定しておらず、比較的点数を取りにくい分野です。特に退職給付会計の論点が出題されたときは合格率が低くなっており、計算方法に至るまで理解しておく必要があります。出題数が少ないため、正解できる問題を確実に押さえましょう。

- ・ B分野 確定拠出年金制度

1 事例の出題になりますが、A分野とともに出題傾向が安定しておらず、比較的点数を取りにくい分野です。最低でも3問中2問は正解できるように過去問を中心にトレーニングしてください。

- ・ C分野 投資に関する知識

唯一2事例出題される分野です。計算問題を中心に比較の出題傾向が安定しているため、金融が得意な方はほぼ満点を狙える科目です。しかし、基礎編同様に苦手な方にとっては、理解するまでに時間がかかるので、早めに理論をマスターしてください。

- ・ D分野 ライフプランニングとリタイアメントプランニング

1 事例の出題になりますが、係数計算など非常に易しい分野ですので、確実に全問正解を狙いましょう。この分野で点数を落とすと合格が厳しくなります。

<まとめ>

受験生はすでに2級に合格しているため、全分野を通じて基礎知識を持っている方のための試験になります。しかしながら、受験生の知識は均質ではなく、科目の重みづけも異なります。社労士合格者等で年金分野に深い知識がある方は、「A・B分野7～8割、C分野7割、D分野10割」を目標に学習されるといいでしょう。CFP合格者等で金融分野に深い知識がある方は、「A・B分野6～7割、C分野9～10割、D分野10割」を目標に学習されるといいでしょう。

いずれにしても基礎編と応用編の総合得点で合否が決まりますので、科目間のみならず基礎・応用の学習時間も偏ることなくバランスよく学習しましょう。

3 本試験出題例

[基礎編]

A 国民年金の被保険者

(2009年度試験)

《問》国民年金の被保険者に関する次の記述のうち、不適切なものはどれか。

- 1) 退職により厚生年金保険の被保険者の資格を喪失し、第1号被保険者となった者は、原則として20日以内に種別の変更に関する事項を市(区)町村長に届け出なければならない。
- 2) 厚生年金保険の高齢任意加入被保険者は、第2号被保険者である。
- 3) 第3号被保険者の資格を取得した者は、その配偶者である第2号被保険者を使用する事業主等を経由して、厚生労働大臣(当該事業主を管轄する年金事務所等)に「国民年金第3号被保険者資格取得届」を提出しなければならない。
- 4) 昭和40年4月1日以前生まれの者で、65歳到達時に老齢基礎年金の受給資格期間を満たしていない者のうち、日本国内に住所を有する者、または日本国籍を有する者であつて日本国内に住所を有しない者は、65歳以上70歳未満の間で、受給資格期間を満たすまで国民年金の任意加入被保険者となることができる。

正解：1) 第2号被保険者から第1号被保険者となったことの種別変更の届出は、原則として14日以内である。

B 個人型年金の加入者資格

(2015年度試験)

《問》確定拠出年金の個人型年金の加入者資格を有しているものは、次のうちどれか。

- 1) 企業型年金を実施している事業所の従業員で、企業型年金の加入の対象でない職種であるために企業型年金の加入者とならない者
- 2) 日本国内に住所を有する60歳以上65歳未満の国民年金の任意加入被保険者
- 3) 企業型年金を実施している事業所の従業員で、企業型年金加入者とならないことを選択した者
- 4) 生活保護法による生活扶助を受給しているために国民年金の保険料納付を免除されている国民年金第1号被保険者

正解：1) 企業型年金があるものの加入者の資格を有しない場合は個人型に加入できる。

D 年金と諸係数

(2011年度試験)

《問》年金と諸係数に関する次の記述のうち、不適切なものはどれか。

- 1) 年金現価係数は、一定期間、一定金額を受け取るためには、現在いくら元本があればよいかを求める際に用いる係数である。
- 2) 減債基金係数は、一定期間後に一定の金額を得るためには、毎年どれだけの積立をすればよいかを求める際に用いる係数である。
- 3) 年金終価係数は、毎年(期)、一定金額を積み立てて貯蓄していく場合、一定期間後の元利合計はいくらになるかを求める際に用いる係数である。
- 4) 資本回収係数は、一定の金額を複利運用した場合、一定期間後にはいくらになるかを求める際に用いる係数である。

正解：4) 資本回収係数とは、一定金額(元本)を一定期間で取り崩していく場合、毎年(期)どれだけの金額を取り崩すことができるかを示す係数である。

[応用編]

C 金融(シャープレシオとインフォメーションレシオ)

(2009年度試験)

《設 例》

Sさんは、アクティブ型の株式投資信託A、B、Cの3つに投資している。ここ1年間のパフォーマンス等は、以下のとおりである。なお、リスクフリーレートは0.2%とする。

	商品A	商品B	商品C
トータル・リターン	4.5%	5.8%	7.7%
ベンチマーク・リターン	4.0%	5.6%	7.4%
標準偏差	3.5%	5.4%	9.2%
トラッキング・エラー	0.9%	1.2%	2.6%

《問1》トラッキング・エラーについて説明した次の文章中の空欄①、②に入る語句を答え、文章を完成させなさい。

トラッキング・エラーとは、「(①)のリターンと、ファンドのリターンがどのくらい乖離したかを示す指標」である。トラッキング・エラーを確認することで、過去の運用でどの程度(①)と乖離した運用となったのかを知ることが可能である。また、トラッキング・エラーは、(②)リスクとも呼ばれる。

《問2》Sさんは、商品A、B、Cのシャープ・レシオの高い順に、60%、30%、10%の割合で投資したいと考えている。この場合のポートフォリオの期待収益率(%)はいくらになるか、計算過程を示して答えなさい。なお、答は小数点以下第2位未満を四捨五入すること。

《問3》商品A、B、Cのインフォメーション・レシオのうち、最も数値の高いものはどれか、計算過程を示して答えなさい。なお、計算結果は小数点以下第2位未満を四捨五入すること。

《問1》正解 ①ベンチマーク ②アクティブ

《問2》

$$\text{シャープ・レシオ} = \frac{\text{トータル・リターン} - \text{リスクフリーレート}}{\text{リスク (標準偏差)}}$$

$$A : (4.5 - 0.2) / 3.5 = 1.2285 \dots \approx 1.23$$

$$B : (5.8 - 0.2) / 5.4 = 1.0370 \dots \approx 1.04$$

$$C : (7.7 - 0.2) / 9.2 = 0.8152 \dots \approx 0.82$$

シャープ・レシオはA>B>Cであるから、条件により、Aに60%、Bに30%、Cに10%投資するポートフォリオの期待収益率は、 $4.5\% \times 0.6 + 5.8\% \times 0.3 + 7.7\% \times 0.1 = 5.21\%$

正解：5.21%

《問3》

$$\text{インフォメーション・レシオ} = \frac{\text{トータル・リターン} - \text{ベンチマーク・リターン}}{\text{トラッキング・エラー}}$$

$$A : (4.5 - 4.0) / 0.9 = 0.5555 \dots \approx 0.56$$

$$B : (5.8 - 5.6) / 1.2 = 0.1666 \dots \approx 0.17$$

$$C : (7.7 - 7.4) / 2.6 = 0.1153 \dots \approx 0.12$$

インフォメーション・レシオはA>B>Cの順に高い。

正解：数値が高いのは商品A

参考：1級出題範囲

A. わが国の年金制度・退職給付制度

出題項目	出題の内容と狙い
1. 公的年金制度	企業が確定拠出年金導入等を検討する際には、人事・労務面はもとより財務・経理面から現行の退職金・企業年金制度の問題点を把握することが不可欠となります。こうした企業経営に直結する退職給付制度に関し、公的年金の動向も踏まえつつ、企業ニーズに適切に答えられる退職給付制度全般の専門的・実務的な知識と対応力が求められます。また、企業ニーズのみならず、企業の従業員や自営業者等、個人の観点からも公的・私的年金制度全般にわたり適切にアドバイスできる知識が必要となります。 《出題項目》 2級の出題項目はすべて含まれます。さらに下記項目等も含め、より専門的・実務的な内容となります。 ・退職給付会計 ・企業年金制度と人事・労務 ・確定給付企業年金および各種退職給付・年金プラン 等
・公的年金制度の概要 ・国民年金の仕組み ・厚生年金保険の仕組み ・共済年金の仕組み ・公的年金制度の改革動向	
2. 私的年金制度	
・私的年金制度の概要 ・企業年金と退職金制度 ・国民年金基金の仕組み ・厚生年金基金の仕組み ・中小企業退職金共済制度 ・特定退職金共済制度 ・財形年金制度 ・各種個人年金とその仕組み	
3. 新しい私的年金制度	
・確定拠出年金制度導入の背景 ・確定拠出年金制度の位置付け ・米国確定拠出型年金の概要とわが国制度との比較 ・確定給付企業年金法に基づく制度 ・ハイブリッド型年金制度	

B. 確定拠出年金制度

出題項目	出題の内容と狙い
1. 確定拠出年金制度の仕組み	確定拠出年金制度を適切に導入し運営していくためには、確定拠出年金制度について、既存の退職金・年金制度からの移行を含めた制度設計、年金規約の策定、年金資産の運用を中心とした加入者数育、掛金の拠出と年金の受給等、制度設計・導入・運営といった一連の実務知識が必要となります。また、確定拠出年金制度の運営に関わる運営管理機関、資産管理機関、運用商品提供機関、さらには企業型年金を実施する企業や個人型年金における国民年金基金連合会の役割や行為準則等の知識も不可欠です。 したがって、確定拠出年金とそれに関連する法令・行政通達等、幅広くかつ深い理解が求められます。
・確定拠出年金制度の概要 ・企業型年金の仕組み ・個人型年金の仕組み ・加入対象者 ・掛金と拠出限度額 ・運用 ・受給権と給付 ・離・転職時の取扱い ・税制上の措置 ・確定拠出年金規約 ・加入者のメリット・デメリット ・企業のメリット・デメリット ・既存の退職給付制度からの移行	
2. コンプライアンス	

・事業主の責務と行為準則 ・運営管理機関・資産管理機関の行為準則 ・投資情報提供・運用商品説明上の留意点 ・受託者責任とは ・エリサ法とブルーデントマン・ルール	《出題項目》 2級の出題項目はすべて含まれます。さらに下記項目等も含め、より専門的・実務的な内容となります。 ・制度導入コンサルティング ・制度設計の留意点 ・制度運営上の留意点
--	---

C. 投資に関する知識

出題項目	出題の内容と狙い
1. 投資の基本	運用の方法に係る金融商品の選定・モニタリングを適切に理解するためには、投資理論と各金融商品の特性、資産の運用に関する専門的知識が必要となります。また、いわゆる投資教育を行うには、加入者等が適切に金融商品を選択できるように、個々の加入者等のニーズや経験、知識レベル等を考慮し、専門的知識を適切にわかりやすく伝える説明能力も求められます。 さらに、運用商品の説明や情報提供を行ううえで遵守すべき法令・ルールにも精通していることが不可欠となります。 《出題項目》 2級の出題項目はすべて含まれます。さらに下記項目等も含め、より専門的・実務的な内容となります。 ・確定拠出年金における運用商品の選定・提示とモニタリング 等
・リスクの定義と計算 ・リターンの計算 ・リスクとリターンの関係 ・貨幣の時間価値（現在価値と将来価値） ・終価と現価の考え方 ・分散投資の目的と効果 ・ドルコスト平均法	
2. 運用商品の理解	
・預貯金の特徴と留意点 ・債券投資の特徴と留意点 ・株式投資の特徴と留意点 ・投資信託の特徴と留意点 ・保険商品の特徴と留意点 ・外貨建商品の特徴と留意点	
3. アセットアロケーションの考え方	
・相関係数 ・リスク許容度 ・運用方針の決定 ・アセットアロケーションとは ・有効フロンティアの考え方	
4. 投資判断のための評価指標	
・投資指標・投資分析情報 ・ベンチマーク ・格付け ・投信評価 ・パフォーマンス評価	

D. ライフプランニングとリタイアメントプランニング

出題項目	出題の内容と狙い
1. ライフプランニングの基本的な考え方	加入者等に対し、老後の生活設計のアドバイスを行うためには、リタイアメントプランニングを中心としたライフプランニングとキャッシュフロー・マネジメントの知識が必要です。個人の資産・負債状況等を把握し、老後の資金面の基盤となる公的年金を始め、他の老後資金準備手段も踏まえたうえで、確定拠出年金の役割・位置付けを明確に捉え、確定拠出年金における目標額の設定、アセットアロケーションを中心とした運用判断のアドバイス等、実務的知識と実践的プランニング・アドバイス能力が求められます。 《出題項目》 2級の出題項目はすべて含まれます。より総合的・実践的な内容となります。
・ライフプランニングに必要な知識 ・ライフプランの立て方 ・キャッシュフロー表の作成法 ・キャッシュフロー・マネジメントと資産積立プラン	
2. リタイアメントプランニングと確定拠出年金	
・ライフプランとリタイアメントプランの関係 ・リタイアメントプランの作成 ・公的年金の受給額計算 ・退職一時金・年金に係る税金 ・リタイアメントプランニングにおけるアセットアロケーション ・リタイアメントプランニングと確定拠出年金	